

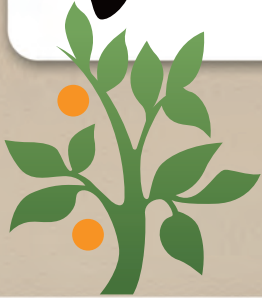
支えあう喜びを新しい世代へ

Issue Number

32

Calebasse

からばす



CARA

ASSOCIATION POUR LA COOPERATION ET L'AUTOGESTION RURALE EN AFRIQUE DE L'OUEST



企画/編集/発行 特定非営利活動法人
カラ=西アフリカ農村自立協力会

農

学研究者としてマリで試みたい農業支援

名古屋大学 大学院環境学研究所 研究員
神山 拓也

2009年にカラの協力を得て、マリ共和国にあるカラの支援する村を訪れてから5年が経過した。その間に、マリ共和国では多くの犠牲者を伴う紛争が発生した。現在は新政府が成立し、国は安定しているが、近隣諸国からのエボラ出血熱の脅威に晒されている。マリの国土は日本の国土の約3倍あり、地域ごとに民族は異なり、風土も異なる。私が2009年に訪問することができた村では、皆笑顔で、時間がゆっくり流れており、とても平和であるようにみられた。そのような村の人たちの雰囲気を受け、以前の旅行記で記述したように、私はこれらの村人のために何かをしたいと強く思うようになった。



村には電気も水道も通っていなかった。水は手で井戸から汲みあげ、飲用水にも野菜の栽培にもこの水が使われていた。この野菜栽培は、カラの指導で女性によっておこなわれていた。村人の主食は雨期に栽培するトウジンビエで、プリンのように調理されたものと、野菜園から収穫された野菜を使ったシチュー状のものであった。また、換金作物としてワタが栽培されているようであり、化粧品に利用されるシアバターの原料であるシアバターノキが自生していた。肉食用の家畜として、ホロホロチョウ、ニワトリ、ヤギ、ウシ、物を輸送するためにロバが飼われていた。乾期であるため、若い男性はほとんど町に出稼ぎにいられているとのことであった。

滞在期間が2週間未満であり、その間は新しく目にすることに気を取られて、何が自分に支援できるのか殆ど思いつかなかったが、経験未熟で若輩ではあるが今思いつく限りにおいて、農学の研究者としてマリの村に対して支援できそうな事項を提案したい。P2へ→

<http://ongcara.org/>

2014/11/1 発行

NO.32

からばす

私は、支援事業は村人が自分で考え今後の村の将来を思い描くことができるようになることが最も重要であると考えている。これまでに、ラオスのある村の農業を調査する機会があった。そこでは現在伝統的な焼畑農業がおこなわれているが、より合理的で収入を得る事が出来る近代的農法への転換の為に、ゴムの木の植林やトウモロコシなどの換金作物の栽培を政府によって迫られていた。しかし、一部地域では近代的農法へ転換したものの、私が調査した村では伝統的な農業体系のほうが好まれ継続されていた。理由は多様な機能を調査した結果明らかになったことだが、焼畑地で作物を栽培し、休耕地の森から植物や動物を採取して販売し、自家消費もできていたからであった。グローバル化が進み、貨幣経済が浸透していく中で、都市にあこがれを持つ若者には金銭的な利益の少ない伝統的な焼畑農法を維持することは、非常に困難である。しかし、ラオスの一部地域の村人は、セーフティネットが発達した伝統的な焼畑農法を選択していた。今後は、私が訪れたマリでも、電気や道路などのインフラが整いグローバル化が進み、貨幣経済が浸透し化学肥料や農薬などを使用する近代農業への移行を求められると思う。しかし、それには金銭が必要であり、そのために利益の出る作物品種の選択や栽培を強いられる。この選択が悪いとは一概には言えないが、近代農業の功罪を村人は知る必要がある。そこで、今後発展していく途上国では、今までの伝統的農業技術をそのまま移転するのではなく、よりよい未来の栽培体系を選択する必要があると考える。

以上の考えをもとに、私がマリ村に行って研究をおこなうことを空想した。それは、村人とともに現状の農業体系の欠点と利点を振り返り、加えて村の環境と人々に適合した近代技術を組み合わせた地域適合型農業体系ともいえるものを2、3年実施して、これに投入した労働力、生産量、金銭を明らかにするとともに、写真など目に見える形で労働光景や、失われるものと残るもの(笑顔、共同作業、伝統農機具や衣装、祭り、景観など)を記録し、字を知らない村人にも理解できるような今後の農業体系を作り上げ、教育材料として提供することである。

役に立ちそうな基本となる農業体系には次の2つが考えられる。

- ① 異なる植物種(野菜や樹木など)を同じ土地に混作することで、地上部空間や土壌をより効率的、かつ持続的に利用し、生産性を高めること。
- ② 作物栽培の場や家畜の放牧の場を村の回りで順繰りに変更していく移動耕作をおこない、土壌の持続性を高めること。

以上を現地で村人と一緒に実施し、記録することで村人と円滑に話し合い彼らが受け入れやすい新しい技術を考えたい。そして、現地に適した技術ができれば、それを子供達に教育することで、マリの人々にとってよりよい未来を選択する手助けができると考えられる。叶うのであれば挑戦してみたいことである。

上半期カラの活動のご報告

村上一枝

今、西アフリカのみならず多くの国を含めて最重要問題の感があるエボラ出血熱について「マリも大変ですね」と言う声を時々お聞きします。現在は表面に出た感染者数はありませんが(10/10現在)、感染者の多いギニアと国境を接していて、毎日バスが運行し往来する人が多いので、感染者が確認されていないだけだと思います。確認手段も入国時チェックもまだまだ不十分のようです。日本政府も積極的に感染者の減少の為に貢献してほしいと思います。

次に2014年度の上半期におけるカラの活動をご報告致します。

日本国内に於いては、武蔵野市男女共同参画週間の事業に参加し、6月29日武蔵野プレイスの研修室をお借りし「アフリカに見る男女共同参画への意識の変革」と題し、トークイベントを村上とゲストのマンズール・ジャーニュー氏で開催致しました。司会はむさしの男女共同参画市民協議会会長の原利子氏にお願い致しました。当日は部屋いっぱいの方々がお集まり下さいました。ジャーニュー氏は、アフリカの女性の立場、歴史やイスラム教等、村上は、立場の弱い女性が如何にして社会・男性に認められるようになってきたか等、カラの20年以上の支援活動を通しての経験と成果をお話ししました。このトークイベントは、非常に興味を呼び再開を望む声も多く聞かれました。

現地マリでは6月から10月までは雨期で農作業が多忙の為、カラの事業もさほど活発ではありませんでしたが、例年なら閉ざされている識字教室も継続されており、少人数でも学習を続けている村も見られ、教育についての意識が非常に高まっていることが感じられました。

現在は乾季に入り、早い村では女性達により、唐人ヒエの収穫や野菜の苗作りが行われていることでしょう。



武蔵野男女共同参画週間事業、カラトークイベント

教育事業

10月19日は2011年10月からJICAの資金で3年間継続していた、3コミュン(86ヶ村)を対象とした、初等教育の充実の為の事業、一般住民対象の識字教育の普及と識字教室の建設、識字教師育成の2つの研修会(上級のフランス語研修会と初級のバンバラ語研修会)が計画通りに進み、無事に終了しました。

このフランス語の研修会は、識字教師の内でも特に優秀な教師を対象にしたもので、今後は公用語のフランス語を住民に指導できる人材を育成するのが目的です。現状としては、出稼ぎ経験のある多くの人は多少のフランス語を話す事は出来ますが、書くことや読むことは出来ないのです。指導者は地域の小学校の先生にお願いして、教材は小学校1年生から6年生用を使用しました。この研修会は、マリ共和国では初めて行われた事業です。NGOレベルでこのような研修会を開催する事は、

他の団体ではみられないことです。それだけに現地スタッフのスマイラとケイタは特に力を入れ、毎回熱心にマネージメントをしていました。

私も村にいたら参加したいものでした。この事業は10月に終了しましたが、今後どのように村の人たちに活用され、又研修生自身の為に活用されるのか、見守っていく必要があると思います。村の住民対象の識字学習でもフランス語が指導されるようになると、我々の希望の達成に近づいて来ます。

この3年間のJICA事業の最中にクーデターが起きたため、現地の視察に、また「喝」を入れに行くことができませんでしたが、日本からの遠隔操作によって現地スタッフだけで事業が進行し、中止されることなく終了できたということは、これまで続けてきたカラの事業にとって、大きな成果であると思います。然し、日本側から事業進行状況を見ていると、意識の違いもあり、はがゆい点もありました。

それは…

①習ったことが役立つとなったら、直ぐに出稼ぎに出されてしまい、研修会の最終回まで出席する人が少ない事。これは直ぐに役立つから良いだろう、とも言えますが、出来れば最後までしっかり勉強して欲しいと思いました。

②3 コミュン、86ヶ村対象の研修会ですが、各村に研修会場を準備することは不可能な為、上級のフランス語研修会場は8ヶ所(村)、バンバラ語研修会場は7ヶ所(村)としました。徒歩での参加者も多く、赤ちゃんをおんぶした女性もテクテクと歩いて来ます。会場に指定された村の外から来る人は何らかの交通手段が必要になり、自転車やバイクで通いましたが、自転車やバイクの故障が原因で欠席するという事が多々ありました。

③更に、人々は村のしきたりに左右される、ということです。結婚式は全村あげてのお祝いで休み、葬式も同様、誕生した子供の命名式もそのようです。これを拒否すると「村八分」になるかもしれません。このような事情があって、毎回欠席者の数が問題でした。

④研修生の個人的な問題では、スマイラが何回注意しても遅刻する人がいました。それについても「遅刻して申し訳ない」と言う言葉は一切ないのです。これはいつも女性でした。家事の都合で遅れるのかもしれませんが、その理由を言わないのです。彼は、このことを毎月報告書に書いていました。それから当初は、研修会へ出席するから食事を出せ、とか手当てをだせ、とかいう人もいましたが、カラはこれらには全く屈しません。なかなか上手く行かないこともありましたが、でも再開を望む声、特に今度は中学校の教科書を学びたいという声も多くあがってきたことを鑑みても、事業としては成功したと思います。



フランス語研修会ムムブ会場

「この識字学習の事業は人々の日常生活に密着した事柄であり、とても村の役に立っている」とケイタやスマイラは言います。例えば、過去にはコットンの生産高の計量や登録、支払い金の計算などには村以外の方が働いていましたが、その作業を自分達の村人によって可能になったからです。これで誤魔化されないで済む、と言うことです。

それから新築された識字教室の内、ジョコブグー村、ジョコソコロ村、ファサ村では識字教室を村人が非常に良く管理し、識字教師も一生懸命に指導しているので、村人が感謝の気持ちでお礼の為に土地をプレゼントしたということです。我々の支援が、どのような形態であるにせよ村の人々の役に立ち、貢献しているということは、本当にうれしく、ありがたいことだと思います。

学校林造成が再開しました

今年度から再開した学校林の造成はモバ村小学校です。この事業には11校から要請がありましたが、複数の学校への造成は不可能ですから、水の状況を検討しながら徐々に進めていきます。学校林といっても生徒達だけの作業ではなく父兄が手伝います。7月から始まった事業なので今年度は苗作りだけ、今はスタッフの指導で子供達が苗作りを行なっています。資金は「緑の募金」からのものです。過去に多くの小学校で造成した学校林は、現在とても大きく生育し、学校や村の経済的な面に活用されています。



建設中のパリコロ識字教室

保健事業

保健事業を助成してくださっている「公益信託アフリカ支援基金」による【ティネンジェ クリバリー村の助産師育成と産院開設事業】は、早々と産院が完成し、12月に研修を終了して帰郷する助産師を待つばかりです。研修中の女性は非常に優秀である、と指導医師からレターが来ました。四方30km位には全く産院も診療所もない地域ですから、村の人たちはどんなにか待ち焦がれていると思います。

女性の仕事について

女性が主体となっている貸付事業や、適正技術の事業の運営も女性達の手にも委ねられています。スタッフのアワからの直近の報告では、貸付事業の利益を運用して石鹼製造器を購入したり、井戸掘削費用の一部にしたり、産院の経費の一部に、と利用されています。

「素敵な生き方」との出会い

小野 信也 (学習塾 ソフィア板橋スクール 経営)

1954年(昭和29年)5月15日・福島県いわき市生まれ。上智大学比較文化学部(現・国際教養学部)を卒業後、学習塾「ソフィア板橋スクール」経営。小学生から大学受験生まで、自ら教鞭を執る。趣味のマジックはプロ級。Bob DylanのCD収集も趣味の一つ。



2000年初頭より日本経済新聞夕刊に数カ月掲載された「ミドルからの出発」は大変興味深い、刺激満点のコラムでした。タイトルから想像できるように、ミドルエイジ以降大きく生活基盤を変えられた方々の生き様を紹介するものでした。2月15日(月)夕刻、僕が村上一枝さんを知ったときです。「村上一枝が、新潟市内で開業していた小児専門歯科医院と、愛車のボルボを売り・・・」で始まるそのコラムは村上さんの「素敵な」生き方・考え方を伝えてくれ、感動させられました。翌日、日経新聞に連絡をとり、カラさんの事務所の連絡先を教えてください電話を入れたところ、村上さんご自身がお出になられ、わずかながらの賛同をしたい旨お伝えして、今に至っているわけです。直接お目にかかったのは、昨年の八王子での講演会が初めてでした。

現在、東京都板橋区で学習塾を生業としている僕自身も「ミドルからの出発」組なのかもしれません。実家の福島県いわき市に高校まで過ごし、高校卒業後二年間遊び呆けて大学受験に失敗し、板橋区にあった家業の酒飯店を20年近く経営したあとに、38歳の時に上智大学比較文化学部(現在は国際教養学部)に入学、若き友人たちと学び舎を共にしました。

四年前に先立たれた連れ合いの由理の人生観や、大学時代の友人たちに大いに刺激されました。国連やその下部機関・外務省勤務などを通じて発展途上国の支援・紛争国での活動に関わっている友人も沢山います。現在恵まれていない方たちへの支援は「素敵な」こと、もっと碎けて言えば「カッコイイ〜」ことと考えるに至っています。もっとも、カラさんを初めとして、五団体に一年で数万円の寄付を続けているのが、僕にとっての今のところの援助活動の全てですので、「素敵な」ことを沢山しているとは言い難いのですが。



小澤 秀樹さん
東京大学工学部卒業・理科学研究所所属後、海外青年協力隊員としてタンザニアで二年間教鞭を執る。現在外資系化学薬品会社に勤務。一児の父。趣味はダブルダッチなど。

仕事の「プチ自慢」を一つ。学習塾を始めてから十数年になりますが、開校の時にチラシを新聞折り込みに入れたのが唯一の宣伝活動で、それ以来、下は小学生から大学受験生まで生徒が集まってきています。生徒への受験の指導・日々の補習授業はもちろんですが、折に触れ、世界の現状の話などをしたり、「素敵な」生き方などを共に考えたりしています。

多少は刺激になったのでしょうか、こちらの塾で指導を手伝ってもらっていた小澤秀樹くんは、大学卒業後海外青年協力隊員として二年間タンザニアで教鞭をとりました。彼自身、自分の人生が豊かになったと述べていますし、益々「素敵な」青年になっています。

塾の卒業生の関根めぐみちゃんは千代田区役所に籍を置き、現在ネパールで海外青年協力隊員活動の日々を過ごしています。こちらの塾に在籍していた時、支援活動などに向いていると感じたので、彼女には早くから海外青年協力隊活動を進めてもいました。ただそのような活動に理解を示してくれる企業・団体も少ないのが現状で、都内各区役所もその例外ではないでしょう。僕「めぐみちゃん、早く活動参加したらどうだい。」めぐみちゃん「何言ってるんですか〜。せっかく就職できたのに、活動に参加して戻ってきたら私の席がなくなっちゃうんですよ〜。」僕「だったら活動参加出来るように制度を作ってもらったらいいんじゃないの。」めぐみちゃん「ええ〜、そんなことできるんですかー!」僕「やるだけやってみたらどうだい。」と言うことで、上司に話をし彼女は東京都の正式派遣第1号として、ネパールで「素敵な」日々を過ごしています。

自己紹介めいた話が多くなってしまいました。若いつもりでいましたが、僕も今年還暦を迎えました。20年ずつ4回過ごそうと企んでいる人生もラストの始まりです。一週間ばかりですが今年11月にめぐみちゃんのいるネパールの田舎を訪れる予定です。ヨーロッパの街が大好きな僕にとって初めてのアジアへの旅です。「ミドルからの出発」ならぬ「シニアからの『素敵な』出発」の第一歩になるかも? です。



関根 めぐみさん
明治大学政治経済学部を卒業後、「千代田区役所」に勤務。現在海外青年協力隊員として、ネパールで活動中。趣味はバックパックの旅行など。

カラ コンサート かけはし SPECIAL



2014年12/18(木)
開場:13:30 開演:14:00

@十字屋ホール
東京都中央区銀座三丁目
松屋デパート向かい / 03-3561-5250

銀座線・丸ノ内線・日比谷線 銀座駅(A9出口)
有楽町線(8出口)ともに徒歩2分
整理券:4,000円
(アフリカの小物が当るお楽しみクジ付き)

出演
原田 康子 ボーカリスト
並木 健司 ギターリスト/アレンジャー

井上 加奈子 ピアノ
ベルナデタ・アスタリ ソプラノ

国内活動

- 4/26 【国際ソロプチミスト日本北リジョン第28回日本財団分科会】にて講演 札幌市教育文化会館
- 5/17 明星大学にて講演 明星大学
- 5/24 【Radiant Pride】にて講演 新宿
この会は、高等学校の生徒さんたちのボランティアグループです。
- 5/25 【東京白梅会】にて活動紹介 中野サンプラザ
- 6/21～29 【武蔵野市男女共同参画週間事業】にてパネル展示 武蔵野プレイス
- 6/29 【武蔵野市男女共同参画週間事業】にて国際支援についてのトーク「アフリカの女性の今 ゼロからの出発」
武蔵野プレイス 3階 スペースC
司 会:原 利子(むさしの男女共同参画市民協議会 会長) トーク:マンスール・ジャーニュ 村上 一枝
- 8/29 【2014年国際理解協カプログラム】にて講演「学ぶ喜び アフリカにつなぐ」 宮城学院中学校高等学校
- 10/11 【あま市 市民活動祭】にて講演 愛知県 あま市 七宝産業会館
- 10/25 【盛岡ふるさと会】にて活動紹介 ホテルグランドパレス
- <2014年11月以降の予定> *変更になる場合がございますので、詳細については事務局までお問い合わせください。
- 11/ 2 【岩手県 紫波町ふるさと会】にて活動紹介 東武ホテルレバント東京
- 11/ 8 【岡谷市読書サークル協議会 文化講座】にて講演 長野県岡谷市市立岡谷図書館
- 12/14 【宮城学院 チャリティー コンサート 2014】にて講演・コンサート「クリスマスにマリと出会う ～感謝をこめて～」
宮城学院中学校高等学校 講堂
- 12/18 カラ チャリティーコンサート【かけはし スペシャル】 銀座・十字屋ホール(お申し込みはカラ事務局へ)
- 2015年
1/22 【金沢百万石ロータリークラブ】にて卓話 石川県 金沢市
- 1/21 【金沢パイロットクラブ例会】にて講演
- 1/22 金沢百万石ロータリークラブにて卓話
- 1/23 【金沢西倫理法人会例会】にて講演

からばす(Calebasse) - 第32号 - 2014年11月1日発行

特定非営利活動法人 カラ=西アフリカ農村自立協力会

<http://ongcara.org/>

東京事務局

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-1-6-102

Tel:0422-29-7640 Fax:0422-29-7688

E-mail: centre@ongcara.org

バマコ事務局

BP E367 BAMAKO MALI

Tel:223-2020-9096 Fax:223-2020-3589